

## ネパール 活動報告「地震からの復興とチャイルドたちの暮らし」概要

報告日: 2018年2月17日(土)

場所: 放送大学神奈川学習センター

## 「ネパールの概況」



- 中国とインドにはさまれている
- 8割がヒンズー教徒
- 2015年に新憲法、2017年5月に地方選挙

	ネパール	日本	
5歳未満児死亡率 (1000人当たり)	36	3	日本の約12倍の子どもたちが5歳未満で命を落とす
衛生施設を利用できる 比率 (%)	46	100	農村部ではさらに低く43%
初等学校の最終学年 まで在学する率 (%)	70	100	
成人識字率 (%)	60	—	成人の約4割が読み書きができない
国際貧困ライン 1日1.90米ドル未満で 暮らす人の比率 (%)	15	—	およそ6人に1人が 貧困ライン以下

※出典: ユニセフ世界子供白書 2016 より

## 「出張した地域」 ネパールのマクワンプール、シンズリ



「ネパール大地震緊急支援について」

<p><b>NEPAL</b></p> <p>地震の被災状況</p> <p>2015年4月25日 マグニチュード7.8</p> <p>2015年5月12日 マグニチュード7.3</p>  <p><b>PLAN</b> INTERNATIONAL plan-international.org/NepalOneYear</p>	<p><b>9,000</b> lives lost</p> <p>45% 55%</p> <p><b>887,000</b> homes destroyed or damaged</p> 	<p><b>【最終目標】</b> 32万5,000人への支援</p> <p><b>【活動分野】</b> 教育・子どもの保護 仮設住宅・保健 水と衛生・家計の安定 災害リスク軽減</p> <p>緊急支援の活動地域</p> <p>ドラカ シンドウルパルチョーク マクワンプール シンズリ</p>
---	--	---



左上: 2015年5月、シートやロープを配布している様子

右上: 2015年7月、保護者を対象に正しい手洗いや栄養について教えている様子

下: 2015年7月、子どもひろばで過ごす子どもたちの様子

## 地震から2年経過、緊急支援から復興支援へ



「被災した家族の状況」



左上：地震で倒壊してしまった、元々住んでいた家  
 右上、左右下：現在住んでいる仮設住宅

「仮設校舎の様子」



左上: 2015年5月撮影の仮設校舎の様子、右: 2017年9月出張時に訪問した仮設校舎の様子

左下: 2016年7月撮影の別の仮設校舎の様子

「新しい校舎」 2017年7月に完成した、耐震性を備えた校舎



左上: スロープが設置され、障がいのある子どもたちに配慮した設計、左下: 幼稚園の教室

右上: ネパールの国鳥、国花、国色が描かれた校舎の壁

右中: 手洗い場を備えた男女別トイレ、右下: 高低差をつけた手洗い場、子どもクラブの生徒たちの意見を反映し、小さい子どもたちに配慮した設計

# プラン・スポンサーシップが支える地域開発

プラン・自治体・コミュニティ組織・住民・子ども

スポンサー



チャイルド



Plan International ©

「子どもとともに進める地域開発」



## チャイルドSUNITAさん



■ 誕生日：2003年1月23日（15歳）

■ 活動地域：ネパール、バンケ

住居：多くは、泥と干し草で造られ、屋根は藁かスレート葺き

主な民族：Tharus族、Madhesis族、Chhetris族など。

主な水源：多くは手動ポンプが設置された浅い掘抜き井戸から汲み上げた地下水を使用。

交通：公共交通網は乏しく、道路は雨季にはぬかるむ。

■ バンケでの活動概要

- 保健と衛生の改善
- 基礎教育の普及と質の向上
- 世帯収入の増加
- 子どもの保護と参加促進

## 「コミュニティへの道のり」



## コミュニティ・ボランティアってどんな人？



## 元チャイルドたちの今



「まとめ」

- 地震発生から2年半経過した現在も、まだ復興の途上の状況
- スポンサーシップは息の長い支援。地域に根を下ろすことで、緊急支援や一般プロジェクトにも良い影響
- 息の長い支援で、確実に地域の人材は育っている

継続的な支援には時間がかかるが、コミュニティの自立には効果あることを実感

以上